

6 この場面をミニカーで再現し、何が問題かみんなで見つけ、考えましょう



★今日の集まり・早わかり★

目的	用意した道路図の上でミニカーを使って、問題と同様の状況を再現します。ミニカーを動かしながら考えることで、道路上の状況がイメージしやすくなり、「見えている危険」「潜んでいる危険」「今後の展開」を予想するのに役立ちます。												
効果	<p>運転力 🚗 運転知識、とくに事故の原因と危険予測力が上がる。</p> <p>気づき力 🚫 自分の弱点に気づく（自己客観視）。</p> <p>コミュニケーション力 🗣️ 仲間との交流でいきいきした気分になる。</p> <p>脳機能 🧠 話し合いを通じて脳が活性化する。</p>												
時間割の目安	<p>▼ 約1時間30分（準備、あとかたづけを除く）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>○準備</td> <td style="text-align: right;">10分</td> </tr> <tr> <td>①リーダーあいさつ</td> <td style="text-align: right;">10分</td> </tr> <tr> <td>②交通脳トレ.....</td> <td style="text-align: right;">10分</td> </tr> <tr> <td>③ミニカーを使った危険予知トレーニング.....</td> <td style="text-align: right;">1時間5分 (途中休憩あり)</td> </tr> <tr> <td>④リーダーまとめ</td> <td style="text-align: right;">5分</td> </tr> <tr> <td>○あとかたづけ</td> <td style="text-align: right;">10分</td> </tr> </table>	○準備	10分	①リーダーあいさつ	10分	②交通脳トレ.....	10分	③ミニカーを使った危険予知トレーニング.....	1時間5分 (途中休憩あり)	④リーダーまとめ	5分	○あとかたづけ	10分
○準備	10分												
①リーダーあいさつ	10分												
②交通脳トレ.....	10分												
③ミニカーを使った危険予知トレーニング.....	1時間5分 (途中休憩あり)												
④リーダーまとめ	5分												
○あとかたづけ	10分												



あらかじめ用意しておくこと

- 道路図は巻末のものをコピーし、4枚を貼り合わせて使ってください。

《リーダー・班長》

- ご自身でも事前にミニカーを使って問題を解いてみましょう。
- 「ワークシート 危険予知1,2」の問題と解答にあらかじめ目を通し、内容を把握しておきましょう。
- 「今日、話し合うための台本」、「今日、覚えてほしいこと」を読んでおきましょう。
- ご自身の体験談や耳にした事例など、問題と似たようなケースがないか考えておきましょう。

《教材など》

- リーダー・班長用：班長用に P66～79 をすべてコピー（班長の人数分）、レポート用紙など（まとめるために）
- 受講者用：「ワークシート」（P67～72）のカラーコピー（人数分）
「今日、覚えてほしいこと」（P73）のコピー（人数分）※白黒コピー可
別冊子「交通脳トレ3カ月」（2枚1組）のコピー（人数分）※コピー方法は問題集参照
「道路図」2パターン（P174～181）のカラーコピー（班ごとに）
乗用車のミニカー5台、自転車または二輪車のミニカー1台、歩行者用の小さな人形1つ（班ごとに）※ミニカーなどが無い場合はP175、P179のイラストの車などのカラーコピーを使う
お茶（ペットボトル）（人数分）
のり 赤ペンと青ペン・筆記用具（持参していただくか人数分用意）

お名前

あなたは交差点で右折しようとしています



写真は運転席から見たところです。

雨が降っていて、対向車線は渋滞しています。

車の流れが切れるのを待っていると、対向車のタクシーが停止しました。

そこで、手をあげてお礼をしてから、右折しようと思います。

この場面をミニカーと道路図 (P174～177) を使って再現し、考えてみましょう。

どんな危険が
ありますか？



みなさんで見つけた危ないと思われる所に
赤ペンで○をつけてください。

気がつかなかった
危険は？



他の班の意見で自分たちが印をつけなかった所には、
青ペンで○をつけてください。

👤 車を運転しない方 → 助手席に座っている立場からお答えください。

! 曲がり始めたところ、タクシーのかけからバイクが出てきました



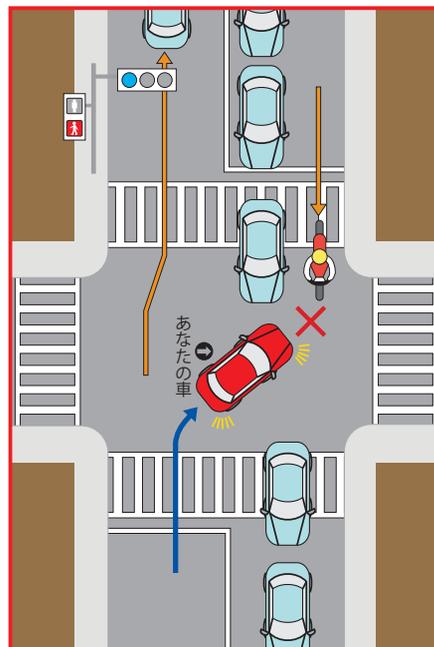
解答

対向車が停止すると、つい安心して安全確認を忘れてたり、止まってくれた相手に気兼ねして、急いで曲がろうとするものです。しかし、問題の写真をよく見ると、対向車の下の路面が光っています。これは雨で濡れた路面に二輪車のライトが反射しているものです。さらに注意すれば、対向車の窓越しに白いヘルメットも見えます。

停止した対向車の前を横切る際は、こうした小さな手がかりを探すと同時に、つねに対向車のかけを意識して慎重に曲がることです。

しかし、路面が乾いているときは、二輪車のライトは反射しませんし、対向車がトラックならヘルメットも見えません。このようなときでも、対向車の側方が見通せる位置までゆっくり車を進めれば、二輪車の方からあなたの車が見えるようになります。

このように、運転は「見る」と同時に「見られる」ことが大切です。



◆右折時に対向車が止まっても、横をすり抜けてくる二輪車に注意して慎重に曲がる。

!! 右折車と直進車の衝突は「^{うちよ}右直事故」といい、
交差点事故の中では「^{であ}出会い頭」に次いで多い事故です。



① 止まっていた対向車が動き出した！

交差点で青信号なのに車が止まる理由の1つに、前方が渋滞で詰まっていることがあります。前が動き出せば、止まっていた車は動き出します。停止した対向車のドライバーの目を見て、本当に譲ってくれたのかを確認することも大切です。

② 横断歩道を自転車、歩行者が渡る

右折時には、右折方向の横断歩道を歩行者や自転車が渡っている危険性があります。

雨の日は、車だけでなく、傘をさしている歩行者や自転車利用者も、視野が狭くなっています。急いで右折すると、自転車や歩行者を見落とすことがあります。自転車や歩行者の側でも、傘などで視界を遮られ、右折してくる車（この場合、あなたの車）に気がつかないことがあります。

あわてずにしっかり確認しながら右折しましょう。

お名前

あなたは交通量の多い道を走っています



© (株) JAF MATE 社

写真は運転席から見たもので、右側には右折待ちの車があり、
交差点の先の道路の左側には駐車車両が見えます。
前方で対向車が右折を始めました。あなたはこの動きに合わせて、
交差点を進んでいこうと思っています。
この場面をミニカーと道路図 (P178 ~ 181) を使って再現し、考えてみましょう。

どんな危険が
ありますか？



みなさんで見つけた危ないと思われる所に
赤ペンで○をつけてください。

気がつかなかった
危険は？



他の班の意見で自分たちが印をつけなかった所には、
青ペンで○をつけてください。

車を運転しない方 → 助手席に座っている立場からお答えください。



対向の右折車が自転車に気づいて 交差点の真ん中で停止しました



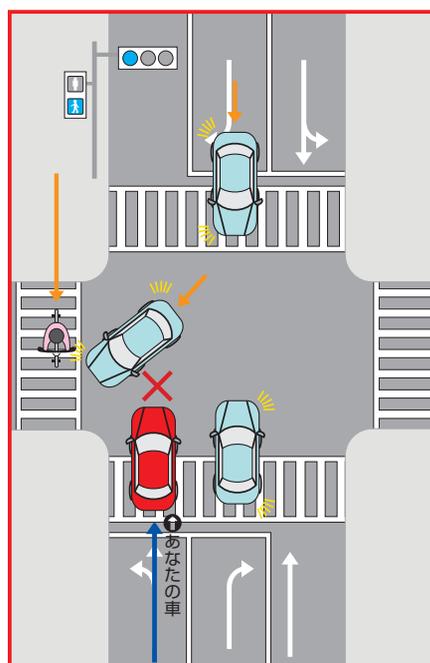
解答

左側の横断歩道に目を向けると、歩行者は渡り終えています、向こう側から自転車が走ってきます。

右折車は自転車の通過を待って停止しました。

このように自分とは一見関係のない対象が危険原因になることがあるので、見たものを別々に考えず、「あれが○○すれば、これが○○するかもしれない」と連想するように心がけます。

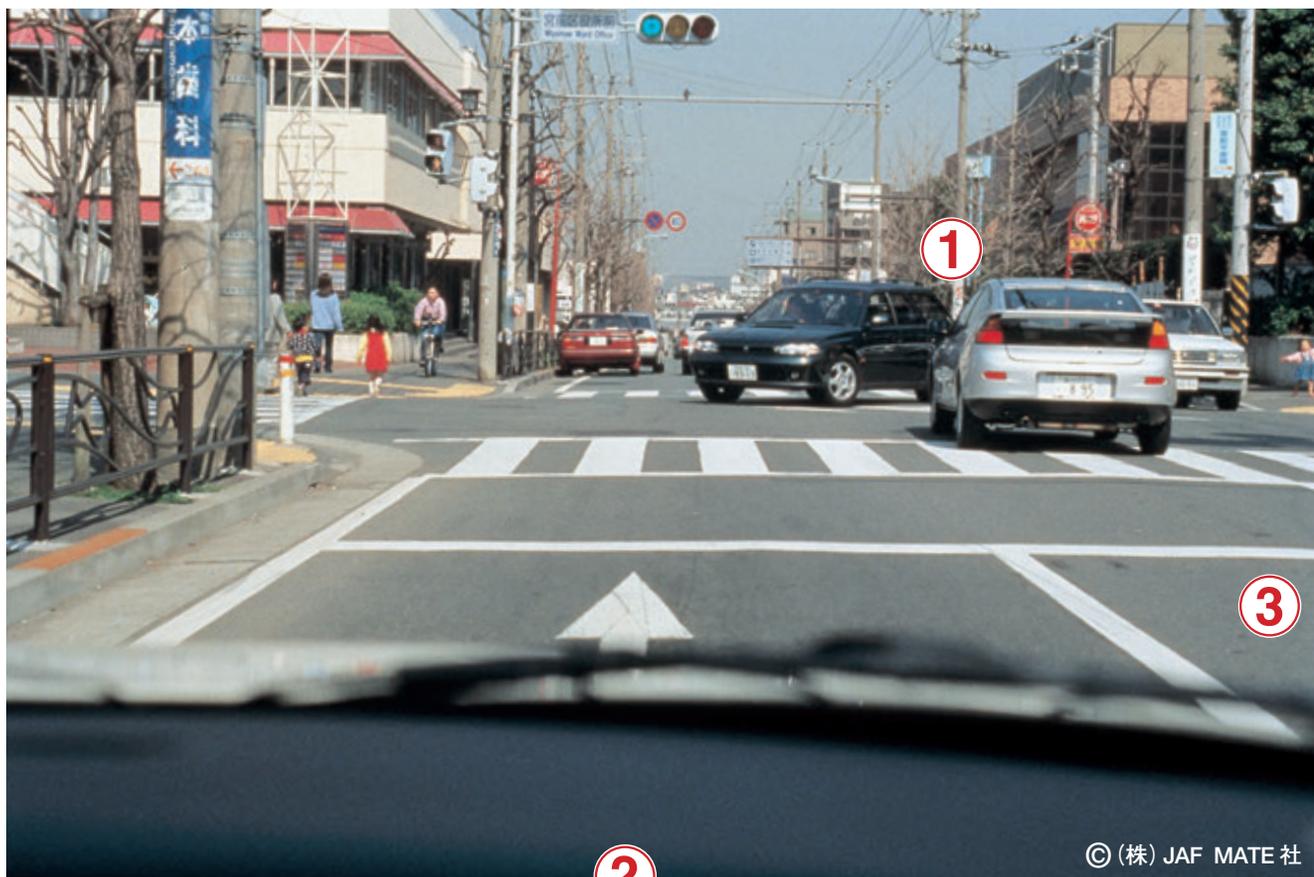
また、運転に慣れた人では、自分の速度と対向右折車までの距離を読んで、「自分が交差点の中に入ったときは、右折車はすでに曲がり終えているはず」と考えて、減速しないで交差点に進入することもあるようですが、これは危険です。



◆交差点の中で、さまざまな要因が影響し合って、事故を起こす。



年齢を重ねるにつれ、1度にいろいろなものを見て判断する力が衰えてきます。
それを補うためには、速度を控え目にし、見落としや発見遅れがないようにします。



© (株) JAF MATE 社

① 2台目の右折車も曲がってくる

交差点では直進車に優先権があるため、「右折車は直進車の通過を待つはずだ」と考えがちですが、それは危険です。今回のような場合、1台目の四輪車に続いて、つられて2台目の右折車も曲がってくるかもしれません。優先意識を強く持ちすぎず、2台目の右折車の動きまで予測できる気持ちの余裕が必要です。

② 後ろの車から追突される

あなたの後ろにいる車は、前方の様子が見えにくいので、ブレーキが遅れてあなたに追突してしまう恐れがあります。後続車両に情報を伝えるという意味でも、前方に危険が予測される時は、ブレーキペダルに足を置き、後続車にブレーキランプで合図をしましょう。

③ 自動二輪があなたの車の右脇をすりぬけようとしている

交差点の先に見える駐車車両を考えて、交差点に入るときセンターライン寄りを走りたくなります。右側方の安全を確かめないでうっかり右に寄ると、あなたを追い越そうとしている二輪車がいた場合には、接触するかもしれません。

前方に気を配るだけでなく、ルームミラー、サイドミラーなどで、側方を二輪車が走っていないかなど、周辺の情報も把握しておきましょう。

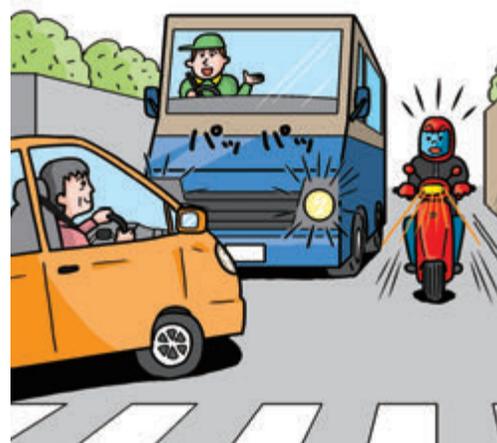
危険予知 1

譲ってもらったと思い込むことで起きる「サンキュー事故」

「危険予知1」は、タクシーが止まったので、先に右折しろという合図だと思い込み、安心して右折したら二輪車が出てきたという問題でした。「サンキュー事故」といいます。

仮に親切で止まってくれたとしても、右折を始めるかどうかは自分が決めることです。右折にはたくさんのチェックポイントがあります。「停止した車両のかげから出てくる直進車」「左折車、二輪車、自転車はないか」「進行方向にある横断歩道には人はいないか」「自転車が走り抜けられないか」などなど。

渋滞中ということも考える必要があります。たいていの場合、渋滞は四輪車だけのもので、二輪車や自転車は、四輪車の隙間を走ることができます。起こりうるいろいろなことを「読んで」答えを出すのが、危険予知です。



危険予知 2

見えていないものが、自分にどんな関係があるか考えましょう

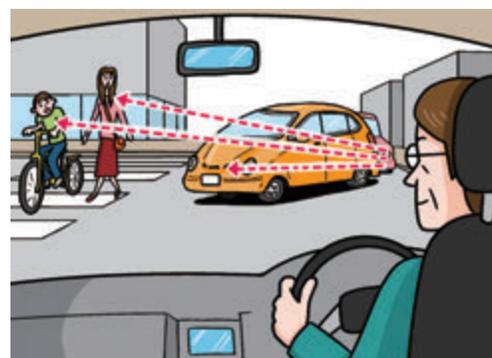
交通量の多い交差点、というのがこの問題を考える前提です。運転する人がこの問題で一番気になるのは、自分の進路をふさぐ対向右折車（見えている危険）です。

写真の状況では、正面に見える車が右折し終わったところをタイミングよく通過したいと考えるのが自然です。対向右折車がスムーズに右折できるかどうかは、横断歩道に入ろうとしている自転車にかかっています。

ただ、あなたが自転車を見落としたとしても、速度を落とし、右折車の動きから目を離さないで、まっすぐ交差点に入っていけば、相手が急に止まっても衝突は避けられるでしょう。あなたが速度を落とすとき、何度かブレーキペダルを踏んでおけば、後続車も気づいて減速するので、あなたが急停止しても追突をまぬがれる確率は高まります。

しかし、右折中の車の後ろを通り抜けようとして、進路を少し右寄りに変えると、新しい危険が発生します。あなたの右側方を併進している二輪車があれば、接触して、転倒させてしまいます。

自分の車の行動がまわりの四輪車や二輪車、自転車などにどんな影響を与えるか考えるのも、危険予知には欠かせないことです。



今日、話し合うための台本

進める順序	リーダーと班長にやっていただくこと
<p>○準備 10分</p>	<p>※参加者の人数に合わせて、あらかじめリーダーは班長を決めておく。</p> <p>①班を編成（5～8人）する。 ②机やいすを並べかえ、班ごとに着席する。</p>
<p>①リーダーあいさつ 10分</p> <p style="text-align: center;">▼ ▼ ▼ ▼ ▼ ▼ ▼</p>	<p>♣ リーダー（班長の代表）</p>  
<p>■班ごとに自己紹介</p>	<p>♠ 班長 ご自分を含め、全員に自己紹介をしてもらう。 （お名前、お住まいの地域、運転歴、最近車で出かけた所など）</p>
<p>②交通脳トレ 10分</p> <p>■「交通脳トレ」問題2枚配布</p> <p style="text-align: center;">▼ ▼ ▼ ▼ ▼ ▼ ▼</p>	<p>♠ 班長</p> <p>①「交通脳トレ」問題2枚を配る。 ②2人1組になり、問題終了までの時間を腕時計（秒針付き）で計って用紙に記入してもらう。</p> <p>★リーダーが時間を計ってもよい。</p> <p>▼1枚目 「文字ひろい」または「まちがい探し」 ▼2枚目 「計算と音読」</p>  

話し方の例

このまま読みあげるだけで講座を進めることができます

ポイント



リーダー

●危険予知のトレーニングは今日で3回目です。前回は、静止した場面の写真を見ながら、どんな危険があるかを考えました。ずっと運転席に座ってハンドルを握っていた感じですね。今日の危険予知トレーニングでは、趣向を変えて、道路図の上でミニカーを動かしてみましょう。

- 問題写真は前回と同じように運転席から見た交通場面です。
- 初めに「危険予知1問題」の問題文を読みあげますが、今日は紙に書いた道路図の上に、問題場面の車や自転車などを配置してください。どこに何があるのかを、写真に忠実に再現します。このときに自分が乗っている車を忘れないでください。地図上に再現した車の動きを考えながら、どこに危険があるかを見つけていきます。

運転免許を持たない方も参加している場合の追加説明の例

- 運転免許を持っていない方は、ご主人や奥様、あるいはお子様が運転する車の助手席に座っていると考えて、交通場面を見てください。



班長

●最初のトレーニングは「交通脳トレ」です。この問題は3ヵ月分あるのですが、今日はそのうちの1日分(2枚)をやっていただきます。

- 1枚目の問題では、安全運転に大切な、運転中にとっさに危険を察知する能力を支える、脳のトレーニングを行います。
2枚目の問題では、簡単な計算問題(※)と小説などの一部を音読していただき、脳を活性化します。2枚1組の問題を少なくとも3ヵ月間続けて行くと効果が出てきます。
- 2人1組になり、問題にかかった時間を腕時計(秒針付き)で計ります。
1枚目の問題から始めます。「スタート」の合図をしたら、時間を図ってください。では、スタートします。
(2枚目の問題も同様に行う)

★準備の必要上、初めて実施するときは事前に班長を決めておきますが、次回からは自薦、他薦で班長を決めるのもよいでしょう。

★参加者のみなさんに、トレーニングの目的、内容を理解してもらうことが大切です。

★お互いのことを知ると話がスムーズに進みます。

★まず、「交通脳トレ」から始め、脳の働きを高めます。

★開発者は、脳のトレーニングで知られる東北大学の川島隆太教授です。

※やさしい問題をすばやく正確に計算することが、脳を活性化させます。

★時間の計り方を練習してから始めましょう。

*「交通脳トレ」の詳しい情報は、別冊子「交通脳トレ3ヵ月」をご覧ください。

進める順序

③ ミニカーを使った危険予知トレーニング

1時間5分

○ 危険予知 1 を行う (合計 30分)

■ 「ワークシート 危険予知 1 問題」 1枚
「道路図」 4枚配布 (10分)



リーダーと班長にやっていただくこと

♠ 班長

- ① 「ワークシート 危険予知 1 問題」1枚と、問題文に対応した「道路図」4枚とのり、ミニカーなどや歩行者の人形、赤と青のサインペンを配る。
- ② 問題文を読む。(参加者に読みあげてもらってもよい)
- ③ 「道路図」4枚のコピーを貼り合わせる。(P174～177)
- ④ 問題文の場面をミニカーを使って再現し、四輪車や二輪車、自転車、歩行者を動かしながら、どこに危険があるか、運転経験を生かして話しあい、みんなで危険を見つける。
- ⑤ 問題に取り組む中で出た意見をメモする。

問題



■ 班ごとのまとめ (5分)

♠ 班長

- ① 発言メモをもとに班の意見をまとめる。
- ② みんなで見つけた危険個所を問題用紙の写真に赤ペンで○をつける。

■ 班の代表の発表 (5分)

♠ 班長

- ① 班の代表が参加者全員に話し合った結果を発表する。
- ② 赤い○をつけた場所と、自分たちがなぜ危険と考えたのかを説明しながら発表する。

■ 「ワークシート 危険予知 1 問題」 解答 1枚
「その他の注意」 1枚配布 (10分)

♠ 班長

- ① 「ワークシート 危険予知 1 解答」1枚と「その他の注意」1枚を配る。
- ② 「解答」を読みあげる。(参加意識を高めるために、参加者に読んでもらってもよい)
- ③ 「その他の注意」を読みあげる。(②と同様、参加者に読んでもらってもよい)

解答



その他の注意





- 「危険予知1」は大通りの交差点です。
- 問題文を読みます。(参加意識を高めるために班長以外の人が読んでもよい)

【問題文を読み終わったら】

- この場面を道路図とミニカーを使って再現します。
- まず、道路図のコピーを貼り合わせて、1枚の図をつくってください。
- 道路図の上にミニカーを置きます。いろいろなものが見えますが、大切な要素と思われるものを選んで配置しましょう。問題を解くためのミニカーやコマが足りなければ、道路図(P175と179)にあるイラストの車などを使ってください。
- それぞれが停まっているのか動いているのか、どちらに進もうとしているのかなどを考えながら、コマを手分けして動かしていきます。対向車の係、自転車の係など、声をかけ合いながら進めて、みんなで危険を見つけてください。

運転免許を持たない方も参加している場合の追加説明の例

車の助手席に座っているという想定でトレーニングを一緒にを行います。



【作業が終わったら】

- 問題用紙の写真に、みなさんが見つけた危険個所を、赤ペンで○をつけてください。



- 班ごとのまとめが終わりました。では、「危険予知1」の「解答」と「その他の注意」の2枚をお配りします。「解答」には、こういう場面でもっとも起きやすい事例が書いてあります。〇〇さん、読んでいただけますか？

【「解答」を読み終えたら】

- 次に「その他の注意」を△△さん、読んでいただけますか？

【「その他の注意」を読み終えたら】

- 1つの場面でもいろいろな危険があるということですね。
- ここに書いてある以外にも、話し合いでさまざまな危険が話題になりました。みんな正解です。危険予知の引き出しをたくさん持つことは大切です。ぜひ参考にしてください。

★問題の交通場面を道路図上にミニカーなどで再現することで、より具体的に置かれている状況をイメージしてもらいます。

★参加者の意見を引き出すために、1人ひとりにミニカーを動かしながら、ご自身の体験を交えながら、ヒヤリとした体験を話してもらいましょう。

★1人ひとりが意見を話すことが大切です。突飛に思われる意見もすべて尊重しましょう。

★発言は、同じ人に集中しないように気を配りましょう。

★同じ解答が出てよいので発表してもらいます。解答ごとに人数をメモしておくとういでしょう。

★時間があるときは、「ご自身の運転で問題とよく似た経験がある方はいませんか？あればお話しください」と問いかけるとよいでしょう。

★解答は、事故事例などで大変起きやすいケースを紹介していることに触れてください。

★危険は1つだけではありません。いろいろな危険の可能性を知っておくことが大事であることを強調しましょう。

進める順序 **リーダーと班長にやっていただくこと**

 **休憩** (5分)

○**危険予知 2 を行う**
(合計 30分)

■「ワークシート
危険予知 2 問題」
1 枚、
「道路図」4 枚配布

■「ワークシート
危険予知 2 解答」
1 枚、
「その他の注意」
1 枚配布

 **班長**

「危険予知 1」と同じ要領で、「危険予知 2」を行う。

- ①「ワークシート 危険予知 2 問題」1 枚を配り、問題文を読みあげる。
- ②「道路図」4 枚のコピーを貼り合わせる。(P178 ~ 181)
- ③問題文の場面をミニカーを使って再現し、四輪車、二輪車、自転車、歩行者を動かしながら、どこに危険があるか、運転経験を生かして話し合い、みんなで危険を見つける。
- ④問題に取り組む中で出た意見をメモする。
- ⑤班ごとに班長が意見をまとめる。
- ⑥班の代表が話し合った内容を他の参加者の前で発表する。
- ⑦「ワークシート 危険予知 2 解答」と「その他の注意」を読みあげ、危険箇所を確認する。

④**リーダーまとめ**

5分

■「今日、覚えてほしいこと」1 枚配布



 **リーダー (班長の代表)**

- ①リーダーとして今日の話し合いの感想を話す。
- ②「今日、覚えてほしいこと」1 枚を配り、説明した後、参加者に読みあげてもらう。
- ③今日のまとめをする。



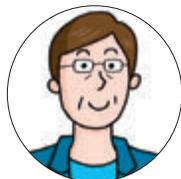
【ご注意】 次回の集まりをご計画の場合は、最後にその案内や班長の人選を忘れないようにしましょう。

○**あとかたづけ**

10分



★問題文は、参加意識を高めるために、参加者に読んでもらってもよいでしょう。



●どの班も盛り上がり、用意した解答も必要なくらいに、さまざまな危険が探し出されました。ミニカーなどを動かしながら相互の影響を見たことで、生きた運転場面に近いものを感じられたのではないのでしょうか。

- 動かして相互の関係を調べることに加えて、もう1つ大事な点があります。それは、上から見ているという点です。どの解答にも図解があります。それは上から見ると周囲の状況を整理して理解することができるからです。俯瞰図とも鳥瞰図ともいいます。鳥が空から地上の獲物を探したり安全な着地点を求めたりするように、運転している場所の前後の様子を上から見るように想像するのです。
- 最後に、資料「今日、覚えてほしいこと」をお配りします。指名させていただきますので、順番に読みあげていただければと思います。(※)
- 今日はこの講座にご参加いただきありがとうございました。今日の話し合いをぜひ普段の運転に役立てていただければと思います。

★参加者は話し合いの後、今日のまとめを期待しています。リーダーの方は「今日、覚えてほしいこと」を配り、今日のポイントをまとめて伝えましょう。

★感想の中で具体的な参加者のお名前などをあげながらお話しし、責任者としての感想をつけ加えていただくと、より励ましになります。

※時間がないときは、「ここでは読みあげませんが、お帰りになってお読みいただくと幸いです」とつけ加えてください。